

CV-22オスプレイの横田飛行場への配備に対する要望書

平成27年5月12日、防衛省北関東防衛局企画部地方調整課から「米国政府が、2017年（平成29年）後半からCV-22オスプレイを横田飛行場に3機配備し、2021年（平成33年）までに7機、計10機を配備する」という趣旨の文書による情報提供がありました。

私どもとしましては、安全保障の重要性は認識しており、併せて沖縄県の負担軽減を実現させていかなければならないことも承知しているところです。

しかしながら、オスプレイの安全性に対する市民の懸念が払拭されていない現段階において、この度唐突に、横田飛行場への配備の発表がなされたことは、誠に遺憾であります。

については、横田飛行場の滑走路の延長線上にあたる自治体として、下記の事項について強く要望いたします。

記

- 私どもの市域は、横田飛行場の滑走路の延長線上にあたり、飛行航路下の市民は常に不安にさらされていることから、今回の配備に関する内容について文書による通知のみでなく、担当者から直接具体的かつ詳細な説明を行うこと。
- オスプレイの安全性については、未だに不安を感じている市民もいらっしゃるから、市民の懸念が払拭されるよう、国の責任においてCV-22オスプレイの安全性について十分な説明責任を果たすこと。
- 上記のような十分な説明責任を果たすことなく、横田飛行場への配備や飛来を行わないことを米国政府に申し入れること。

平成27年5月15日

防衛省北関東防衛局長 渡 邊 一 浩 様

飯能市長 大久保 勝



入間市長 田中 龍夫



日高市長 谷ヶ崎 照雄

